

# 耳石解析による2022年生まれアユのふ化日組成

佐々木賀治

## 1. 目的

アユのふ化時期の早晩は、アユのその後の成長および漁獲状況に関係することが知られている。そこで今後の漁況予報の参考とする目的で、ヒウオ生息状況調査で採捕した2022年生まれのアユのふ化日組成図を作成し、ふ化時期の特徴の把握を試みた。

## 2. 方法

耳石解析に用いたヒウオは、2022年9月26日から12月27日の期間中に7回、船木崎から当场にかけての4水域（図1の実線部分）でヒウオ生息状況調査と同様の手法で採捕した。曳網水深は各水域8mとし、中央付近の2水域では水深16mでも実施した。採捕したヒウオは1地点30尾以上採捕された地点では30尾を上限に、全647個体から耳石を摘出し、耳石解析装置(ARP/W+RI:ラトックシステムエンジニアリング社製)を用いて日輪数(図2)を計数することでふ化日を求めた。30尾以上採

捕された地点では耳石解析で得られたふ化日頻度を全採捕尾数で補正し、ふ化日組成図を作成した。

## 3. 結果

ヒウオのふ化日の範囲は8月22日から11月20日の期間と推定された。ふ化日のピークは9月下旬から10月上旬に認められ、特に10月1日前後にふ化した個体が多かった。また、10月下旬以降にふ化した個体は少なかった(図3)。

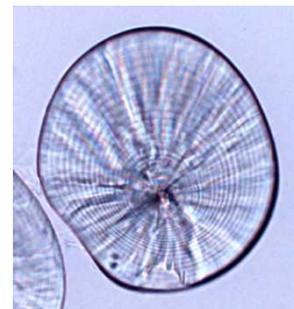


図1 サンプルング水域図 図2 アユ耳石顕微鏡写真

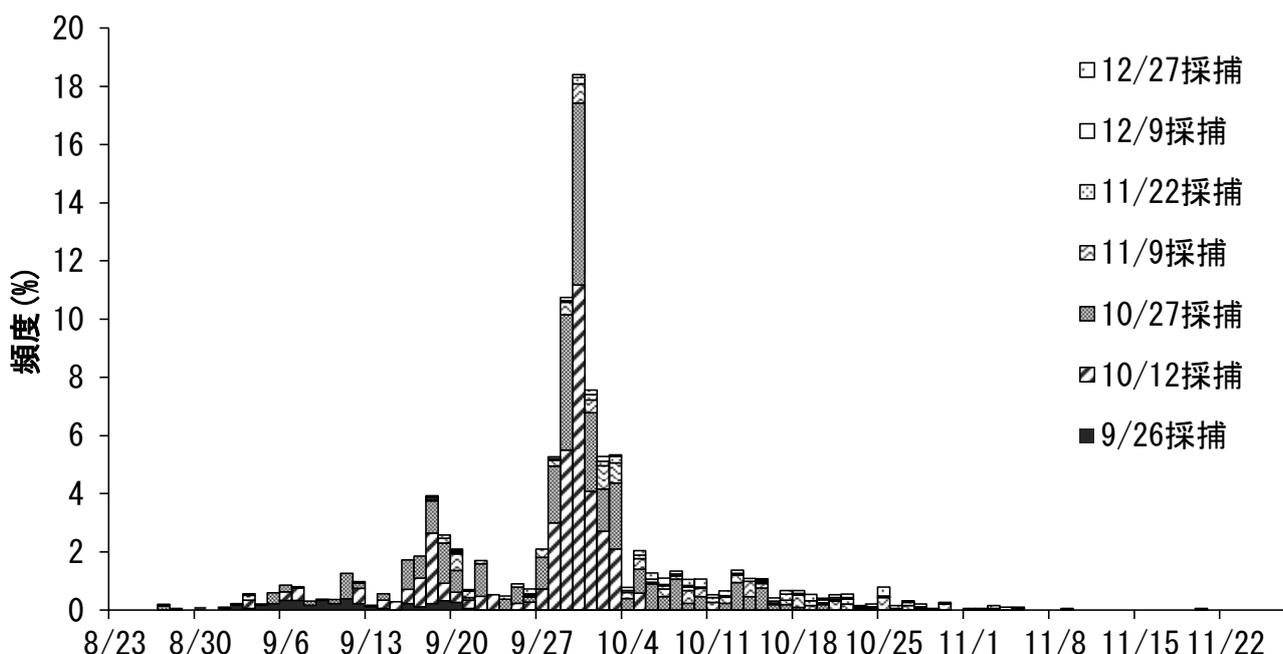


図3 2022年生まれアユのふ化日組成図